

☆実態及び課題

教科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語	正しい筆順や、字の形に気を付けて書くことや、助詞を文の中で正しく使うこと、促音・拗音などの表記が不完全な児童が多い。また自分の思いを話したり書いたりする際に、どんな言葉を使っていいかわからず戸惑う姿も見られる。	話を最後まで要点を押さえて聞くことが難しい児童や新出漢字が身に付かない児童もいる。書くことには意欲的だが、自分の考えを文章に表す際の表現の工夫については、指導を要する児童が多い。	漢字小テストに向けて一生懸命練習する児童が多いが、既習漢字の定着に課題が見られる。またコロナ禍の影響で発表する場面が少なかったため、今後重点的に取り入れる。	全体的に一つ一つの言葉を大切に読む姿が見られる。一方で4年生になって文章が長くなり、集中力を持続して読むことが難しい児童も多い。 【学力調査】グラフや表などの資料がどのように文章に関連付けられているかを読み取ることを苦手とする児童が多い。	書くことに関して苦手意識をもつ児童が多い。互いの立場や意図を明確にしながら、計画的に話し合うことが難しい児童も多い。 【学力調査】文の中で文節の働きを正しく理解していない児童が多い。	口頭で説明したり、発表したりする力は優れている児童が多い。文章構成力は不足しているが、文章に書き表すことに苦手意識をもつ児童は少ない。 【学力調査】理由や根拠を明確にして書くことに課題のある児童が多い。
社会			積極的に発言する児童が多くいる。実際に地域へ出て見学することができていないため、実感を伴った理解がまだ不十分である。	印刷した資料や映像資料などの範囲が限定されたものからは正確に必要な情報を読み取ることができるが、教科書全体やパソコンなどの広い範囲から必要な情報を探すことに難しさを感じる児童が多い。	地図や資料の読み取りでは、多くのことを気付ける児童もいるが、資料をどう見たらいいかわからない児童もいる等読み取りの力の差が激しい。	資料の読み取りの力が高い児童が多く、学び合う中で資料から正確に調べることができる。一方で、課題意識をもって調べられない児童や、調べたことから考えたことを書くことが苦手な児童が多い。
算数	文章問題になると立式が難しい児童がいる。場面を想像し、図や言葉で考え方を伝えたり、立式したりする力を伸ばす必要がある。	学力の差が激しい。長さや水のかさの単位換算が難しい児童が多くいる。さらに、自分の考えを適切な言葉を使って説明することに難しさを感じている児童が多い。	問題文の読み取りが不十分だったり、繰り上がり、繰り下がり、計算や九九等基本の計算が不確実だったりするなどの様子が見られる。個々の実態を把握し、個別に対応する必要がある。	わり算やかけ算などの決められた計算は素早く理解することができる。一方で文章問題や応用問題など、「読む」や「知識を活用する」など複数の技能が同時に求められる問題に難しさを感じる児童が多い。 【学力調査】問題文の内容を具体的なイメージや身近な生活場面と結びつけてとらえることが苦手な児童が半数程度いる。	小数のかけ算、わり算において、立式はできても、答えを出せないことが多い。また、自分の考えを、図や絵を用いて表現することに難しさを感じる児童がいる。 【学力調査】小数÷整数の計算で、筆算の仕方や小数点の処理の仕方を誤ってしまう児童が多い。	基本の計算や作図はよくできる。基本的な文章問題は解答することより説明することに難しさを感じる児童が多い。少し難解な文章問題になると混乱する児童も少なくない。 【学力調査】計算過程の説明や数の意味を説明することが苦手な児童が多い。
理科			興味関心がとても高い。植物を栽培したり、モンシロチョウを飼育したりする活動に熱心に取り組んだ。2学期以降は、問題解決能力の基礎が育つように取り組みたい。	既に知識が豊富な児童と、自分の身の周りの事象と学習内容が結びつかずに難しさを感じている児童の差がある。	植物の発芽や成長に興味をもつ児童が多かったが、知識を習得するに留まり、なぜ、そのような事象になるのかを考察しようとする児童は少ない。	条件を考えて実験をしたり、様々な視点から観察をしたりすることができる。結果から考察することができる児童も多いが、本時の課題と結びつけて考察を考えられる児童はやや少ない。
生活	学校や友達、自然や生き物、季節の変化について、気付いたことを積極的に発言したり、カードに記したりしている。今後は身に着けてきた力を生かし、活動を広げたい。	ミニトマトやザリガニの、世話や観察をすることを意欲的に取り組んでいる。しかし、観察のポイントを押さえて記録している児童は多くない。				
音楽	音楽に合わせてリズム打ちをしたり、音楽に合わせて身体を動かしながら強弱や速度を感じ取ったりする活動を中心に進んで学習している。1学期は歌唱・器楽(鍵盤ハーモニカ)ができなかったため、歌唱や演奏方法の基本を定着させたい。	鍵盤ハーモニカの学習では、運指練習のみ行ったが、個人差が見られる。音楽に合わせて身体を動かす活動では、進んで学習に取り組む児童が多い。	リコーダー学習では、実際に音を出して音色を確かめながらの活動はできなかったため運指練習のみ行った。習得が不十分な児童に対して、個別の支援が必要である。	歌詞を読み取り、どんな風に歌いたいかを考えたり、鑑賞から音楽の要素や仕組みを聴き取ったりする活動に進んで取り組んでいる。1学期は歌唱・器楽(リコーダー)の実践ができなかったため、歌唱や演奏方法を定着させたい。	器楽合奏に意欲的に取り組むが、基本的な奏法が身に付いている児童は少ない。正しい楽器の扱い方や基本的な奏法の習得を基に、思いや意図を演奏の工夫に生かせるようになることが課題である。	鑑賞では聴き取ったことをもとに楽曲のよさを文章にしてまとめる活動を行ったが、音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取ってまとめる力に個人差が出やすい。

図工	様々な学習活動に対して興味があり、意欲が高い。好きなものへのこだわりは強く、興味のない物を創作することは少ない。	発想豊かで、相手意識をもち、自分らしく表現できる児童が多い。一方で自分が興味をもったことに気持ちが向かい、授業に集中して取り組めない児童も少なくない。	2年時より細かい作業も集中して取り組める児童が多くなってきた。一方で自分の気持ちが向かないと活動意欲が低下してしまう児童もいる。	児童に全体指導したあとの理解が速い。自分の世界の中で、どうしたら完成予想に向かって実現できるか建設的に考えられる児童が多い。イメージを形にするまでに特に時間がかかる児童もいる。	思春期に入っているせいか、自分の表現を人に見られるのに抵抗のある児童も見られる。自分の作品や表現を一人一人がより自信をつけられるよう指導していきたい。	学年全体が友好的で明るく、男女ともに仲が良く、楽しそうに取り組んでいる。じっくり表現を深める児童も多く見られるが、浅い表現で満足してしまう児童もいる。
家庭					新しい教科に対する関心が高い。裁縫の実技は取り組み始めたばかりで個人差もあるため、裁縫の仕方の基本を定着させたい。	理解力の高い児童が多い。実技の苦手な児童に対し、他の児童が代わりに行うのではなく、自力でできる方法を考えることが課題である。
体育	より楽しい遊び方に気付いたり、友達のよい動きをまねしたりする様子が見られ始めた。今後は友達と協力して学び合う良さを感じさせたい。	走・跳の運動遊びでは、鬼ごっこやリレーを楽しみ、素早く逃げる方法やより速く走るポイントを考えることができていた。規律としての集合・整列には課題が残る。	どの児童も「できるようになりたい」という思いをもって取り組んでいるが、個人差が大きい。それぞれの児童の運動上の課題を把握する必要がある。	1学期は様々な制限があったが、決まりを守り楽しみながら運動することができた。体の使い方が上手いかわからない児童が多いので、多様な運動経験をさせていきたい。	運動に進んで取り組む児童が多い。しかし、運動のポイントを友達に進んで伝えようとする児童は少ない。	運動に進んで取り組む児童は多い。短距離走、跳躍などの運動が苦手な児童が多い。巧緻性、敏捷性、バランス感覚などは平均的な力がある。
道徳	教材を通して、じっくり自己内対話をするのが難しい児童が多い。	毎時間、教材を通して自分の考えをもつことのできる児童が多かった。一方で、考えをノートに書いたり、話し合いで伝えたりすることのできる児童はまだ多くない。	教材を通して自分の考えをもつことができる。友達の意見を聞いて自分の考えと比べるまでには至っていない児童が多い。	自分の考えだけでなく、友達の考えも大切にできる姿が見られる。書いて表現することが苦手な児童が多い。	意見の交流や議論を通して、自分の考えを深められる児童がいる一方、深められない児童もいる。	意見を積極的に発信する児童と、受け手に回る児童に二極化している。意見を言えない児童も意見を書くことはできる。
外国語					聞くことに関して、苦手意識をもっている児童が多い。児童間では、進んでコミュニケーションを取ろうとする児童が多い。	単元末のスピーチでは、既習の表現を活用して、相手に伝えようと工夫して発表していた。書くことにも意欲的であるが、苦手意識をもっている児童も少なくない。

☆課題解決の視点・手立て ※取り組む内容 課:課題 学:学習形態 発:発問・指示・板書 教:教材の工夫

教科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正
国語	教話型や文型を提示したり、例をいくつか示したりして、段階的に児童が力を付けられるように工夫していく。		学話す・聞く単元の指導に力を入れる他に、朝のスピーチなど日頃から話す・聞く機会を習慣的に増やす。 教書く指導の際には、よりよい表現を学ぶことができる「手本文」やワークシート(メモ)を効果的に使う。		教漢字小テストをこまめに実施し、習熟を図るとともに文章の中でも適宜使えるように指導していく。 学ソーシャルディスタンスに配慮しつつ、発表の場を増やし、指導をする。		教文字を読むことに慣れるために、他の教科も含めて児童が主体的に活字に触れられる機会を増やしていく。 【学力調査】教文章を書くときやプレゼンテーションなどの活動を行うときに、図表などの資料とどのように関連付けていくかという指導を行っていく。		教書くことの指導では、文章の型を提示し、意欲的に取り組めるようにする。 課話し合い活動を計画的に取り入れ、考えたりまとめたりする機会を設ける。 【学力調査】教自分が書いた文章を推敲する時に、主語や述語の照応を意識させ指導を行う。		発発表の機会を増やし、話す力をより高めていく。 教書きたい気持ちを高める設定を工夫しながら、例示された文の組み立て方に従った文章を書く経験を増やす。 【学力調査】教文章を書くときは、理由や根拠を明確にして書くよう、指導していく。	



音楽	<p>学 楽しみながら音楽に関わる活動を通して、基礎的な知識や表現の能力を育てていく。</p> <p>発 場面に応じた指示と助言を行う。</p>		<p>教 鍵盤ハーモニカの運指が視覚的に理解できるようにICT機器を活用したり、必要に応じて個別の指導を行ったりする。</p> <p>学 振り返りカードの活用で次時への意欲を高める。</p>		<p>教 リコーダー運指練習のために視覚的にわかりやすい資料やICT機器の活用を行う。</p> <p>発 必要に応じて個別の指導や、場面に応じた指示と助言を行う。</p>		<p>教 児童の実態に合わせた題材の工夫や選曲を行う。</p> <p>発 場面に応じた指示と助言を行う。</p>		<p>教 基本的な奏法を繰り返し行い、身に付けさせる。さらに思いや意図を演奏の工夫に活かせるような題材の工夫や選曲を行う。</p> <p>発 必要に応じて個別の指導や、場面に応じた指示と助言を行う。</p>		<p>教 音楽を形づくる要素の関わりを明確におさえる。その上で児童の実態に合わせた題材の工夫や選曲を行う。</p> <p>発 必要に応じて個別の指導や、場面に応じた指示と助言を行う。</p>	
図工	<p>課 鑑賞の時間を多く設けることで、様々なものに対して興味をもてる機会をつくる。</p>		<p>教 新しい素材と出会う機会を多くもつようにすることで、創作意欲を刺激し、なかなか取り組めない児童に関心をもたせる。</p>		<p>課 自分の気持ちが向かないと活動意欲が低下してしまう児童に対して興味をもてるポイント探しや、教師との人間関係を構築する。</p>		<p>発 作品がイメージしやすい言葉がけをする。</p> <p>学 互いに見合う時間を設け、友達の良さから学び、児童同士が高めあえるようにする。</p>		<p>発 個に応じた問いかけをしたり、作品や表現の良さを教師が褒めて、自分の作品や表現に対して自信をつけられるようにする。</p>		<p>発 一人一人に声掛けをする機会を増やし、より良い作品や表現をしようという意欲を高めていく。</p>	
家庭									<p>学 裁縫の手順の説明を細かく示したり、電子黒板で実際に見せたりして、裁縫の基本を指導する。また実態に応じて個別に支援を行う。</p> <p>課 トライカードを活用し、学校で学んだことを家で実践し、家族の喜びを次のやる気につなげる。</p>		<p>学 裁縫の手順を細分化したり、一つ一つの実技のやり方を示したりして、自分の力で取り組めるようにする。</p> <p>教 裁縫は複数の制作例を提示することにより、実生活で使おうと思える物を製作する。</p>	
体育	<p>学 友達と一緒に運動する際に自分の役割を果たせるよう、学び合いの仕方について丁寧に指導する。</p>		<p>発 友達の良い動きを見付け、自分の動きに生かしていくことができるように、伝え合う場を設けたり、動きのポイントの指導に力を入れる。</p> <p>学 集団行動や安全面の確保は徹底する。</p>		<p>教 技能のポイントを明確にした指導を行う。互いの動きを見合う時間を確保し、自分の動きに生かしていくようにする。また児童の運動上の課題に応じて、個別指導を行える場を用意する。</p>		<p>発 コロナ対策を十分に行いながら、資料などを通して児童が間接的に対話し、関わり合って学習できるようにしていく。</p> <p>教 技能のポイントを明確にしつつ、安全に配慮して行う。</p>		<p>発 運動のポイントを共有する時間を確保する。伝え合いが上手にできているグループの活動を全体に広めていく。</p>		<p>課 一人一人の力に合わせた場を設定し、それぞれの目標に合った運動ができるようにする。領域を超えて土台となる体づくり運動を重視し、授業展開に活かす。</p>	

<p>道徳</p>	<p>教自分の生活を振り返る時間を十分にとる。日常生活につなげて児童の変容をみとる。</p>		<p>発教材研究においては発問を吟味し、厳選することで、子供がより一層自分の考えをもち、表現したいと思えるようにしていく。</p>		<p>学発問の吟味、厳選を行い、児童が自分の考えを明確にもてるようにする。また、発言の方法など、授業形態を工夫する。</p>		<p>発児童が自分の考えを表現できる時間を多くとることができるように、中心発問を吟味していく。</p>		<p>学自分の考えを深められるよう、導入時の自分の考えと終末における自分の考えがどう変わったのかを、理由を含めて書かせるようにする。</p>		<p>学少人数で話し合い、一人一人が発言できる機会を増やす。 発内的な葛藤が生まれる場面を設定し、発言の意欲を高める。</p>	
<p>外国語</p>									<p>発聞くことの苦手意識を取り除けるよう、繰り返しALTの発音を聞くようにさせる。聞き取れた時には、大いに認めるようにする。</p>		<p>教電子黒板で文の書き方を示したり、PictureDictionaryを活用して単語の意味を理解して書き写せたりするよう指導する。</p>	